

令和6年度 第3回住吉区防災専門会議での意見に対する対応方針

番号	意 見	対 応 方 針	参考
1	【埼玉県八潮市での道路陥没事故について】 埼玉県八潮市で下水道管の破損に起因した道路陥没事故があったが、住吉区内の下水道管も危ないのではないか。<u>震災、洪水に限らず、様々な災害を想定して、携帯トイレ等の物資の備蓄等、住民の防災力を高めるよう啓発していただきたい。</u>	埼玉県八潮市の下水道管破損に起因する道路陥没事故を受け、本市でも建設局が独自に目視確認等の緊急点検を実施したところ、異常は認められませんでした。また、下水道管の直上における空洞調査では、当区を除く 10 区において、道路陥没の危険性が高いと判断された空洞部分が発見されましたが、空洞部分の埋戻しを行っております。 また、埼玉県八潮市での道路陥没事故では、走行中のトラックが転落し、救助活動が難航したため、お風呂、洗濯等の排水抑制が住民等に要請されました。 <u>このような様々な災害や事故にも対応できるよう、住吉区でも簡易トイレ等を備蓄しております。また、南海トラフ地震の避難想定者数 17,204 名に対し 77,200 個備蓄していた排便セットに加え、昨年度避難所等に 84,000 個の排便セットを追加配備しました。さらに、物資の備蓄に加えて、地域での防災訓練等を通し、各家庭での物資備蓄の重要性についてより一層周知してまいります。</u>	畑委員
2	【水害時のマイタイムラインの作成について】 <u>水害時のマイタイムラインについて、災害時の行動を自分で考え作成しなければ効果がないため、さらに区民に広める必要があるのではないか。</u>	5 月に荻田地域で開催された防災リーダー研修において、マイタイムラインの作成方法等に関する講話を実施しました。 <u>このような取り組みや地域での訓練等を通じて、マイタイムラインを活用した災害への備えの重要性と、その作成方法について、周知してまいります。</u>	小林委員

令和6年度 第3回住吉区防災専門会議での意見に対する対応方針

番号	意 見	対 応 方 針	参考
3	【浸水想定表示について】 大和川氾濫時における浸水想定表示について、<u>遠里小野地区のように電信柱に実際に浸水する高さのところに印を入れる等、一目見て浸水する高さが分かるようにできないか。</u>	関西電力に確認したところ、尼崎市で浸水実績標示板を電柱に設置した実績があるとのことでしたが、<u>電柱には、4.5m以上の高さに広告等を掲示することはできず、それ以下の場合でも、高所に設置する場合は、1件ごとに高所設置費用が発生し、別途、標示板のデザイン料、製作費が必要となるということでした。こうした設置にかかるコストを踏まえ、電柱への浸水想定表示については費用対効果を含め検討してまいります。</u> また、住吉区では地域の防災訓練等を通じて、<u>自宅等の特定地点での浸水想定深を記載した「浸水想定表示プレート」を希望者に交付しています。</u>また、<u>災害時避難所や市営住宅には、現在地が想定される高さまで浸水した状態に加工した写真を掲示しています。</u>引き続き、浸水深だけでなく、実際の水位を具体的にイメージしていただけるような表示方法を工夫してまいります。	畑委員 小林委員

令和6年度 第3回住吉区防災専門会議での意見に対する対応方針

番号	意 見	対 応 方 針	参考
4	【災害時避難所における備蓄について】 震災が発生すると、小学校、中学校等の避難所に多くの人が避難してくることが予想されるが、<u>備蓄している食料が300食ほどでは足りないのではないか。</u>	南海トラフ巨大地震が発生した場合、大阪市内では災害時避難所に 53 万人が避難すると想定されています。<u>大阪府・大阪市では、53 万人が最低 3 日間の避難生活を送るために必要な物資の備蓄を完了しています。</u>その一環として、<u>住吉区では、各災害時避難所に合計 300 食、住吉区役所の備蓄倉庫に 17,128 食の食料を備蓄しています。</u>加えて、阿倍野備蓄倉庫等の地区備蓄拠点も整備されており、避難所や区役所で物資の不足が生じた際には、これらの拠点から物資を調達することとしております。 <u>これらの本市による備蓄に加え、日頃から自分自身とご家族のために、最低 3 日分、可能であれば 1 週間分の食品を各家庭等で備えておくことを啓発しています。</u>	小林委員